

(国語科)

言語力を高める国語科の指導

～説明文を中心にした「読む力」を育てる指導法の工夫～

大阪市立御幣島小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校は、「豊かな心を持ち、未来を切り拓く子どもを育てる」という学校教育目標のもと、「自ら学び考える子」「心豊かに行動する子」「自他の命や健康を大切にする子」の育成を目指し、知・情・意のバランスのとれた教育を重視し、教育活動を進めている。

平成25年度より研究教科を国語科とし、言語力を高める指導法について研究を進めてきた。過去3年間の研究の成果として、次のような点が見られた。

- 説明文を正確に読み取る力を高めるために、教材に合わせて効果的な手立てを講じたので、児童の学習意欲が高まった。
- 繰り返し出てくる大事な言葉、接続語、文末表現などに着目させたので、要点や小見出し、要旨などをまとめる力が育ってきた。
しかし、以下の点が、課題として挙げられた。
- 短い文章の時には文章構成を把握して学習できるが、長文化、複雑化していくととらえにくい傾向が見られた。
- 自分の意見と他の意見を比べながら互いに高め合うような学びの場が少なかった。
そこで今年度の視点を次のように決め、筆者が伝えようとしていることを正確に読み取る力を高めたいと考えた。さらに高学年では、筆者の主張を読み取り、自分の考えや意見を持ち、表現できるような指導を試みることにした。

2. 研究の視点

視点1： 教材文の分析と身につけさせたい言語力の系統化

- 教材文の分析を行い、学年の実態に合わせて身に付けたい力を明らかにする。
- 繰り返す言葉や文末の言葉に着目し、根拠を示して正確に読み取る力をつける。
- 学年に応じて、説明文に必要な用語を知り、学習場面で活用する。

視点2： 交流の場

- 読み取ったことを話し合ったり書いたことを見せ合ったりする交流の場を工夫する。
- ペアやグループでの話し合いの場を設定し、読み取ったことを交流したり友だちの意見と比べたりする。さらに、学級全体で意見を伝え合い、深め合う。

視点3： ICTの活用や具体物の効果的な活用

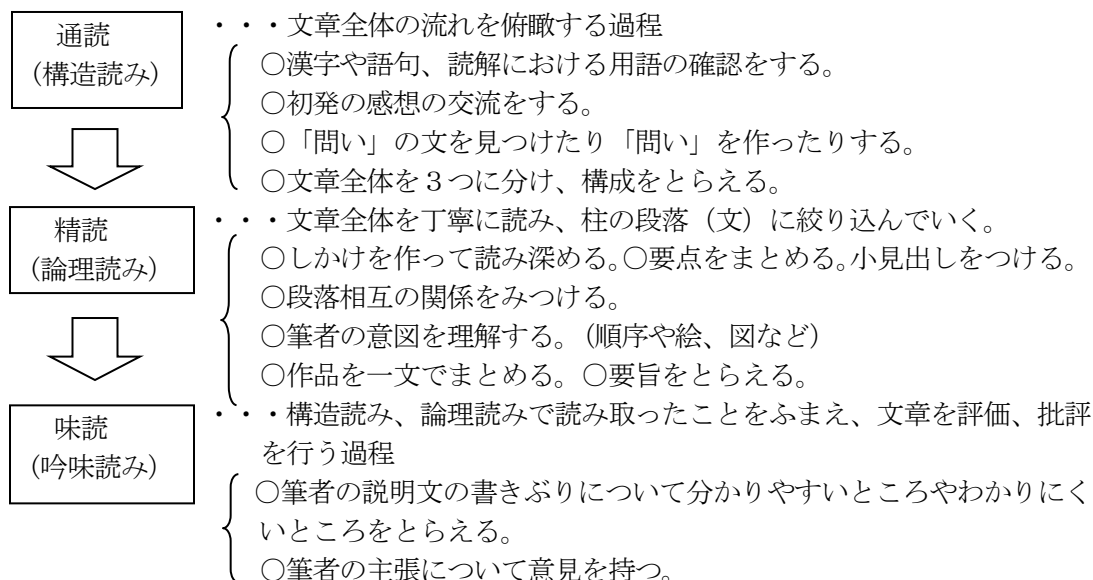
- 筆者が伝えようとしていることを正確に読み取れるようにICTの活用やデジタル教材、具体物を効果的に活用する。

視点4： 読書活動の充実

- 朝の読書・・・「御幣島タイム」
- 並行読書・・・教材に関連した本を地域の図書館より団体貸し出し
- 図書委員会の取り組み・・・読み聞かせ、図書室開放

3. 研究の基本的な考え方

3段階の読みを基本に論理的な読解を目指す。



4. 研究のまとめ

(1) 成果

- 3段階の読みを取り入れて研究を進めてきた。低学年では、教材の全文を1枚のプリントにしたものを使用したり、高学年では、文章構成図を意識させたりして、全体を見通しながら構造的に読み取れるようになってきた。
- ひとりひとりの読みを確実にするために、学年の実態に合わせてワークシートを工夫した。その結果、少しずつ自分の力で読み取れるようになり、説明文の読解力が身についてきた。
- 内容を正確に読み取る力を高めるために、教科書の挿絵や写真だけでなく、デジタル教材や映像を活用したので、児童の意欲が高まり効果的であった。低学年でのペープサートや動作化も視覚的に集中でき、読み取ったことを確認することができた。
- 学年のめあてに沿って、繰り返し出てくる大事な言葉、接続語、文末表現などに着目させ、要約や小見出し、要旨などがまとめられるようになってきた。
- 読み取ったことを伝え合う場面では、二人組やグループでの意見交流を行い、考えを練り上げるようにしたので、自分の意見に自信を持つことができた。

(2) 課題

- 今後も教材解釈をしっかり行い、筆者が伝えようとしていることを正確に読み取れるような手だてを工夫し、言語活動を充実させていく。
- 読み取ったことを交流する場面では、相手を意識した話し合いができるように発表の場を工夫し、表現する楽しさや喜びを味わわせたい。
- 今後も児童が興味・関心を持ち、意欲を持って取り組める言語活動を計画し、主体的に学び、様々な活動に言語力を広げ、国語科で学んだことを他教科やさまざまな場面で生かしていけるようにする。